

滋賀応援寄附(ふるさと納税)の令和3年度からの取組について

1 これまでの取組と課題

(1)これまでの取組

- ・平成20年10月 条例制定、寄附募集開始
- ・平成29年6月 ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」の利用開始
- ・平成31年4月 使途メニューの拡充(2→12)
- ・令和元年6月 返礼品の拡充(ここ滋賀ショッピングサイト掲載商品、2,000円上限)
- ・令和2年4月 使途メニューの拡充(12→16+がんばる医療)
- ・令和2年12月 返礼品の拡充(22品目→45品目)

→これらの取組により、近年、寄附金額は増加している。

【寄附実績】 H29:13,215千円 H30:16,368千円
 R1 :18,109千円 R2 :22,290千円(※)

※3月1日時点、コロナ関係の寄附を除く

(2)課題

- ・個人からの寄附金額が少ない
総務省「ふるさと納税に関する現況調査結果(令和元年度実績)」
個人からの寄附金額:約170万円 全国46位
※1位の佐賀県は約9.5億円
- ・返礼品を通じた物産振興が十分には図れていない
令和元年度の返礼品送付者は34名、返礼品調達費用は計約6万円にとどまっており、
地域への波及効果が小さい。

2 令和3年度からの取組(案)

コロナ禍において、歳入の確保や地域経済の活性化の必要性が増大していることから、滋賀を応援していただける方々を増やし、歳入確保につなげるとともに、県の魅力発信や物産振興を図るため、次の取組を行う。

(1)使途メニューの充実

- ・令和2年度の寄附実績を踏まえ、メニューの廃止・統合を行うとともに、寄附者に共感いただける使途メニューを追加する。※別紙参照。

(2)返礼品の充実

①返礼品の単価上限の引き上げ

- ・現行 2,000 円 → 30,000 円

平均的な年収の人がふるさと納税を行った際に、総務省の基準である寄附額の3割まで返礼品を受け取れるようにするとともに、返礼品を提供している県内市町の8割以上が3万円以上を単価上限としており、市町への一定の配慮の観点からも3万円を単価上限とする。

②返礼品の多様化

- ・「ここ滋賀ショッピングサイト」内の商品に加え、県全体の魅力発信やブランド振興に資する産品を返礼品として選定する。(例:地場産品、旅行券、体験型メニューなど)
- ・なお、返礼品の選定に当たっては、県内各市町の地場産品を組み合わせることなども検討する。(例:地酒セットなど)

③返礼品の発掘等

- ・魅力ある返礼品の発掘・提案について、ふるさと納税に関する専門的なノウハウを持つ業者に委託を行い、返礼品の充実につなげる。

(3)寄附申込サイトの多様化

- ・現在利用しているふるさと納税サイトの「ふるさとチョイス」に加え、次年度から「楽天ふるさと納税」、「さとふる」を利用することにより、寄附の受入間口を拡大する。

(4)広報の強化

- ・以下の方法により、これまで以上に積極的に取り組む。

【県外への発信】

近江ゆかりの会でのPR、各県人会を通じた広報等

【県内への発信】

広報誌、SNS、ホームページ、チラシ、事業担当課による広報等

【寄附者への発信】

寄附者へのメール配信など継続的な寄附に向けたアプローチの強化

⇒これらの取組により、まず、令和3年度は個人からの寄附金額2,000万円を目指す。

3 今後のスケジュール(案)

3月～6月 委託業者の選定、返礼品の調整、ふるさと納税サイト公開準備等

7月頃～ 新制度による寄附受付開始

(別紙) 滋賀応援寄附 令和3年度使い道について

1. 滋賀応援寄附の使い道について

(1) 基本的な考え方

- 多くの方が県の取組に共感し、寄附による応援をしてもらえるよう、使い道を選定する。

(2) 使い道のルール

- 大まかな使い道を設定し、メニュータイトルから大きく逸脱していなければ、その範囲内での事業にも使えることとする。(クラウドファンディング的な事業単位の使い道は設定しない。)
- メニューにない使い道が指定された寄附があった場合は、基本的には原課で収納する。

(3) これまでの使い道

- 平成30年度まで
「琵琶湖」と「歴史的文化遺産」の2種類
- 令和元年度
 - ・メニューを追加し、計12種類(現行の①～⑫)。
 - ・琵琶湖博物館および国スポ・障スポへの寄附はそれぞれ原課で収納していたが、一元化して発信するため、滋賀応援寄附の中のメニューに追加。
- 令和2年度
 - ・メニューを追加し、計16種類(現行の⑬～⑯を追加)。
 - ・新型コロナウイルス感染症対策「滋賀県がんばる医療応援寄附」を特別メニューとして追加。

2. 令和3年度使い道の選定について

(1) 共通の考え方

- 寄附者にとって選択しやすいメニュー数とするため、メニュー数は最大で現状の16種類とする。
- 新規で希望のあったメニューは、全体のバランスを見て内容を検討したうえで、できる限り採用する。
- 令和元年度および令和2年度において寄附実績の少ないメニューについては、全体のバランスを見て廃止もしくは他メニューと統合する。

(2) メニュー再編案

別添のとおり

(別添) R3 滋賀応援寄附メニュー再編案

新番号	メニュータイトル	現行番号	部局	概要	令和2年度寄附金額 (R3.2/18時点)
1	美しい琵琶湖を守ろう	1	琵琶環	外来生物の駆除、次世代の人材育成等、琵琶湖を守る取組に活用します。	13,154,795
2	健康な「やま・森」をつくろう	2	琵琶環	第72回全国植樹祭、農山村地域の魅力を高める取組、獣害対策に活用します。	127,544
3	琵琶湖博物館を応援しよう	4	琵琶環	琵琶湖博物館の魅力発信、開館25周年イベント、県民参加型交流会びわ博フェス等の開催に活用します。	954,371
4	国スポ・障スポを応援しよう	6	文スポ	2025年の開催に向け、競技力の向上および施設の整備等に係る取組に活用します。	105,000
5	滋賀の文化財を次世代へ	7	文スポ	文化財の魅力発信、次世代継承に活用します。	269,392
6	学習船うみのこを応援しよう	8	教委	びわ湖を舞台にした小学生の体験学習に活用します。	264,000
7	(仮)子どもたちの健やかな育ちを守ろう	9	健福	虐待防止や、施設・里親宅で暮らす子どもたちの支援に活用します。	153,800
		新1	健福	・滋賀で生まれた赤ちゃんへ、生んでくれた家族の方達へ、“おめでとう”、“ありがとう”の贈り物を贈るなど出産、子育ての応援に活用します。 ・子ども版・新しい行動様式「すまいる・あくしよん」の取組推進に活用します。 ・滋賀のすべての子どもたちが質の高い幼児教育・保育を受けられる環境づくりに活用します。	-
8	県立学校を応援しよう	13	教委	学習環境の改善など、県立学校それぞれの取組に活用します。一覧に掲載している学校の中から、希望する学校を選択して寄附いただけます。	1,844,000
9	交通安全への願い	14	土木	交通安全の普及啓発や道路整備など、交通安全対策に活用します。	233,000
10	すべての犬と猫の幸せを願って	15	健福	犬猫保護施設の環境改善、飼い主のいない猫対策など、犬と猫が幸せに暮らすための取組に活用します。	4,302,000
11	(仮)CO2ネットゼロを実現しよう	16	琵琶環	二酸化炭素排出量実質ゼロに向けた取組に活用します。	122,137
12	防災ヘリが湖国を守る	新2	知公	防災ヘリを活用した救助・救急活動の充実や大規模災害対策の取組みに活用します。	-
13	豊かな棚田を未来に残そう	新3	農水	棚田保全活動に必要な資材の購入など、棚田を守る取組に活用します。	-
14	子どもたちのしごとチャレンジ	新4	商労	次世代を担う子どもたちへの職業教育、ものづくり人材の育成に活用します。	-
15	みんなが集う都市公園を	新5	土木	湖岸緑地を含めた県営都市公園の施設修繕・補修工事等に活用します。	-
16	(仮)選ばれる近江牛へ	新6	農水	滋賀県生まれ・滋賀県育ちの県産子牛を増やす取組や、さらに美味しく高品質な近江牛を生産する取組に活用します。	-
特別メニュー	新型コロナウイルス感染症対策 (滋賀県がんばる医療・福祉応援寄附)	特別メニュー	健福	医療や福祉の現場において、医療従事者や福祉関係者等が適切に新型コロナウイルス感染症対策を図り、安心して働ける環境を構築することで、県民が必要とする医療・福祉サービスの継続を図ります。	385,515,996

廃止

	目指せ「世界農業遺産」	3	農水	環境にやさしい米づくり、魚が産卵できる水田環境を取り戻す取組等に活用します。	75,000
	安全・快適なびワイチを!	5	土木	滋賀をサイクリングで満喫する「びワイチ」を、より快適にするために活用します。	20,000
	地域にぎわいを!	10	総務	地域リーダーづくりや地域振興等に活用します。	64,000
	文化の力で次世代育成♪	11	文スポ	子どもたちが優れた舞台芸術に触れる取組(「ホールの子」事業)に活用します。	25,000
	粘土で豊かな心と創造力を育てよう	12	商労	子どもや障がい者が、信楽の粘土(古琵琶湖層粘土)に触れる創作体験活動に活用します。	12,000